

## 令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立瑞穂野南小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和7年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

### 【調査の概要】

#### 1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

#### 2 調査期日

令和7年4月17日(木)

#### 3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 理科, 児童質問調査)

中学校 第3学年(国語, 数学, 理科, 生徒質問調査)

#### 4 本校の参加状況

① 国語 26人

② 算数 26人

③ 理科 26人

#### 5 留意事項

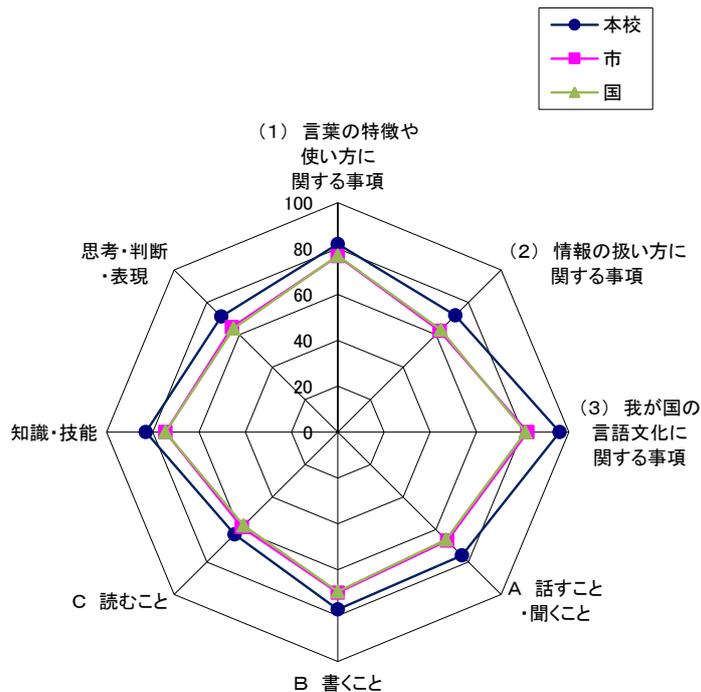
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

# 宇都宮市立瑞穂野南小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

## ★本年度の国、市と本校の状況

### 【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	82.0	76.7	76.9
	(2) 情報の扱い方に関する事項	72.0	62.4	63.1
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	96.0	82.1	81.2
	A 話すこと・聞くこと	76.0	67.0	66.3
	B 書くこと	77.3	70.0	69.5
	C 読むこと	63.0	58.6	57.5
観点	知識・技能	83.0	74.5	74.5
	思考・判断・表現	71.2	64.6	63.8
	主体的に学習に取り組む態度			



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

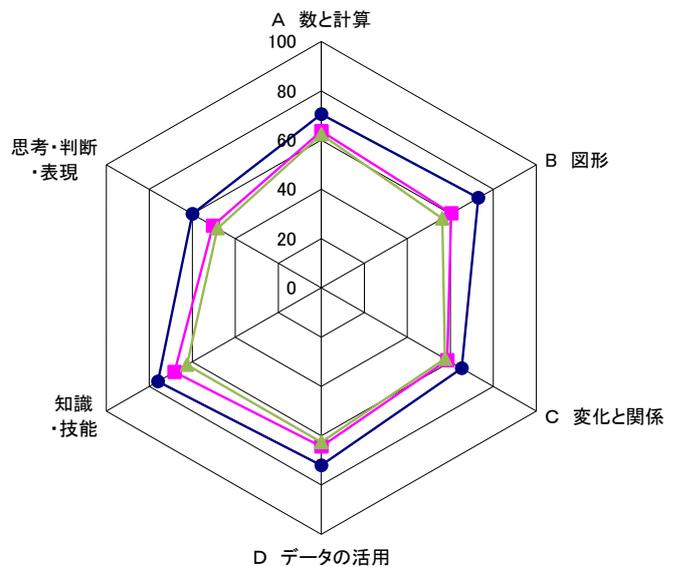
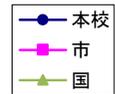
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は全国より高い。 ○既習の漢字を文の中で正しく使えるかどうかをみる設問では、正答率が高い設問も低い設問もあり、ばらつきが見られた。	・既習漢字に関しては、家庭学習等で漢字練習に取り組ませたり、小テストを行ったりして理解を深められるようにする。また、新出漢字を意図的に使って短作文を書かせるなどして、文中で正しく使えるように指導していく。
(2) 情報の扱い方に関する事項	平均正答率は全国より高い。 ○情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる設問では、県や全国の平均を10ポイント程度、上回った。	・自分の考えをより明確なものにしたり、思考をまとめたりする際に、図を用いて言葉と言葉をつないだり、つないだ言葉の関係性について考えたりできるような学習活動を設けるようにする。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は全国より高い。 ○時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付くことができるかどうかをみる設問では、県と全国の正答を10ポイント以上、上回った。	・国語の授業で、辞書を活用する機会を設けたり、幅広いジャンルの本を読んだりすることで、言葉の成り立ちや語源に興味をもてるようにし、語彙力を高める。
A 話すこと・聞くこと	平均正答率は全国より高い。 ○自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えることができるかどうかをみる設問では、正答率が県と全国の平均より20ポイント程度上回った。 ○話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる設問では、正答率が県と全国の平均より10ポイント以上上回った。	・意見を発表したりプレゼンテーションを行ったりする学習で、普段から話合いの後に学んだことや自分の考えなどを伝え合う機会を設けるようにする。また、伝え合う際には、聞き手が求めていることに応じて集めた材料をどのように整理すればよいかを考えながら伝えることができよう指導していく。
B 書くこと	平均正答率は全国より高い。 ○書く内容の中心を明確にして、文章の構成を考えることができるかどうかをみる設問では、県と全国の平均を6ポイント以上、上回った。 ○図表などを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる設問では、県と全国の平均を10ポイント以上、上回った。	・日記指導や意見文など、自分の考えを効果的に書く指導をしていく。その際に、考えの根拠や理由をもとに意見を述べることを意識させたり、相手意識をもたせたりすることで、説得力のある文章を書くことができるように指導していく。 ・書いたものを、お互いに読み合う活動を取り入れ、様々な意見文や感想文に触れられるようにする。
C 読むこと	平均正答率は全国より高い。 ○事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができるかどうかをみる設問では、県と全国の平均正答率を大きく上回った。	・現在取り組んでいる読書記録カード(よむよむ貯金)や読み聞かせ、家読の推進などを継続していくことで、読書に親しむ場を多く設け、推進していくことで、読書の意義について実感できるようにしていく。

# 宇都宮市立瑞穂野南小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

## ★本年度の国、市と本校の状況

### 【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	70.5	63.6	62.3
	B 図形	73.0	60.4	56.2
	C 測定	72.0	56.9	54.8
	C 変化と関係	65.3	58.6	57.5
	D データの活用	72.0	64.4	62.6
観点	知識・技能	76.0	68.3	62.5
	思考・判断・表現	60.0	50.4	48.3
	主体的に学習に取り組む態度			



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

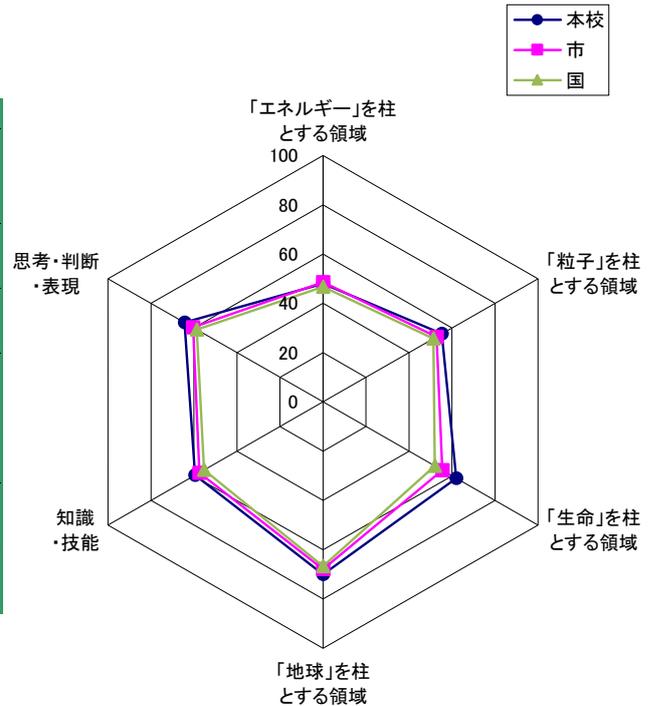
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	<p>平均正答率は全国より高い。</p> <p>○必要な情報を選び、数量の関係を式に表し、計算する設問では、県の平均を12ポイント上回った。</p> <p>●異分母の分数の加法の計算をする設問では、平均正答率が80%だったが、国の平均を下回った。</p> <p>●分数の加法について、共通する単位分数を見だし、それぞれが単位分数の幾つ分かを数や言葉を用いて記述する設問では、平均正答率が36%と他の設問と比較すると低い。</p>	<p>・分数の学習では、問題場面を図で表し、「単位分数の幾つ分であるか」を見付ける活動を取り入れ、単位分数に着目して答えを求められるようにしていく。</p> <p>・朝の学習や宿題等を通して、継続して計算練習に取り組ませ、分数の計算の定着を図る。</p>
B 図形	<p>平均正答率は全国より高い。</p> <p>○台形の意味や性質について理解しているかどうかをみる設問では、県の平均を24.2ポイント上回った。</p> <p>●基本図形に分割できる図形の面積の求め方を、式や言葉を用いて記述できるかどうかを見る設問では、県の平均を大きく上回ったが、他の設問と比べ正答率が56%と低かった。</p>	<p>・面積や体積に関する単元では、式や言葉を用いて求め方を説明する学習活動を取り入れ、自分の考えを表現する機会を増やす。</p>
C 測定	<p>平均正答率は全国より高い。</p> <p>○はかりの目盛りを読むことができるかどうかをみる設問では、県の平均を14.7ポイント上回った。</p>	<p>・算数だけでなく他教科の時間でも、長さや重さを測る活動を行う際に目盛りの読み方を復習し、さらなる定着を図る。</p>
C 変化と関係	<p>平均正答率は全国より高い。</p> <p>○伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見いだす設問では、平均正答率が92%と高く、県の平均を10ポイント上回った。</p> <p>●「10%増量」の意味を解釈し、「増量後の量」が「増量前の量」の何倍になっているかを表す設問では、県の平均を2.2ポイント下回った。</p>	<p>・既習事項の復習の時間に割合の単元を取り上げ、割合の小数と百分率、倍の関係について復習の機会を設定する。また、問題場面を数直線に表すことで、基準量・比較量・割合の関係を自分で整理できるようにする。</p>
D データの活用	<p>平均正答率は全国より高い。</p> <p>○伴って変わる二つの数量関係に着目し、問題を解決するために必要な数量を見だし、知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて記述する設問では、県の平均を8.5ポイント上回った。</p> <p>●棒グラフから、項目間の関係を読み取る設問では、県の平均を大きく下回った。</p>	<p>・グラフを扱う単元では、複数の項目を比べて考える問題を扱い、項目間の関係の見だし方を確認する。また、社会等の時間でグラフを基に自分の考えをまとめる活動を通して、項目間の関係を見付け活用する機会を設定する。</p>

# 宇都宮市立瑞穂野南小学校第6学年【理科】分類・区分別正答率

## ★本年度の国、市と本校の状況

### 【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	「エネルギー」を柱とする領域	48.0	48.6	46.7
	「粒子」を柱とする領域	55.3	52.8	51.4
	「生命」を柱とする領域	62.0	55.5	52.0
	「地球」を柱とする領域	70.0	67.9	66.7
観点	知識・技能	59.5	57.5	55.3
	思考・判断・表現	64.4	60.4	58.7
	主体的に学習に取り組む態度			



## ★指導の工夫と改善

○良質な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
「エネルギー」を柱とする領域	<p>平均正答率は全国よりやや高い。</p> <p>○「電流がつくる磁力について、電磁石の強さは巻数によって変わることの知識が身に付いているかどうかをみる」設問では、平均正答率が100%であり、県より10ポイント以上上回った。</p> <p>●「身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引き付けられる物があることの知識が身に付いているかどうかをみる」設問では、県の平均正答率を4.9ポイント下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実験を行う際には、必ず予想を立てさせ自分の考えを持った上で行う。実験の結果や考察も自分の考えを基にして、どうだったのかを端的にまとめるよう指導し、知識の定着を図る。</li> <li>・予想や考察の際に交流の機会を設け、異なる視点からも実験の結果を捉えられるようにする。</li> </ul>
「粒子」を柱とする領域	<p>平均正答率は全国より高い。</p> <p>○「水の温まり方について、問題に対するまとめを導き出す際、解決するための観察、実験の方法が適切であったかを検討し、表現することができるかどうかをみる」設問には、県の平均正答率を20ポイント以上上回った。</p> <p>●「水の結露について、温度によって水の状態が変化する」という知識を基に、概念的に理解しているかどうかをみる」設問では、県の平均正答率を7.3ポイント下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業では、問題を解決するための観察や実験に注目させ、解決するまでの道筋をイメージした上で自分の考えをノートに書くように指導する。</li> <li>・交流の機会を多く設け、他者の視点で分析したり解釈したりすることで考えを深められるように指導する。</li> </ul>
「生命」を柱とする領域	<p>平均正答率は全国より高い。</p> <p>○「ヘチマの花のつくりや受粉についての知識が身に付いているかどうかをみる」設問では、県の平均正答率を15.9ポイント上回った。</p> <p>●「顕微鏡を操作し、適切な像にするための技能が身に付いているかどうかをみる」設問では、県の平均正答率を7.8ポイント下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・植物の体のつくりについては、理科だけでなく他教科や日常生活においても取り上げ、理解を深めていく。その際に既習内容にも触れ、復習したり比較したりできるようにする。</li> <li>・実験を行う際には、使用する器具や機材の特徴を押さえ、何を調べるための実験なのかを理解させた上で実験を行う。また、器具や機材の使い方の確認を行い、正しく使うことができるように指導する。</li> </ul>
「地球」を柱とする領域	<p>平均正答率は全国より高い。</p> <p>○「赤土の粒の大きさによる水のみ込み方の違いについて、赤土の量と水の量を正しく設定した実験の方法を発想し、表現することができるかどうかをみる」設問では、県の平均正答率を13.9ポイント上回った。</p> <p>●「氷がとけてできた水が海に流れていくことの根拠について、理科で学習したことと関連付けて、知識を概念的に理解しているかどうかをみる」設問では、県の平均正答率を6.1ポイント下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観察の結果の考察においては、考えの根拠を述べることに重点を置き、その現象の因果関係を捉えられるようにする。まとめを行う際や友達と交流を行う際に必ず述べさせることで、論理的な考察が行えるようにする。</li> <li>・「地球」を柱とする領域に関しては天気や気温の変化、日々の生活体験や天気予報などのメディアを通して得られる知識もある。折に触れて考えたり、感じたりする機会を意図的に設け、科学的な言葉や概念の理解につながるよう工夫する。</li> </ul>

# 宇都宮市立瑞穂野南小学校 第6学年 児童質問紙

## ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「算数の勉強は好きか」を問う質問に肯定的回答をした児童の割合は、65.4%で、全国の割合を7.5ポイント上回っている。また、「算数の問題が解けたとき、別の解き方を考えようとしていますか」という質問に肯定的回答をした児童の割合は、92.3%で、全国の割合を10ポイント以上上回っている。児童が算数の課題解決に向けて意欲的に取り組むことは、本校が算数に力を入れ指導してきた成果だと考えられる。今後も、本校独自の取り組みである「がっちりタイム」(基礎学力の定着)で学習内容の定着を図るとともに、実態に応じた学習形態を取り入れ、一人一人に応じたきめ細やかな指導を行い、生活の中で生きて働く知識の習得を支援していく。

○「学校の授業時間以外に、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っているか」の質問に、「1時間以上」と回答した児童が88.4%と全国の割合を上回っている。ICT機器を授業中だけでなく、家庭学習などにおいても積極的に活用していることが分かる。今後も、「友達との意見交換」や「自分の考えをまとめる」などの場面において、ICT機器のよさを活用した授業の展開や、家庭学習でも積極的な活用ができるように指導していく。

○読書活動について、平日の読書時間が2時間以上と回答する児童が11.5%と全国の割合より高く、10分未満と回答する児童が34.6%と全国の割合より低かった。また、「読書は好きですか」の質問の肯定割合が約70%と、全国の割合とほぼ同じだった。本校独自の取り組みである「よむよむタイム」(家庭読書の推進)や学校における読書活動をさらに充実させていくことで、児童の読書時間のさらなる増加につなげていく。

●「新聞を読んでいますか」という質問に肯定的回答をした児童の割合は、3.8%と市の肯定割合よりはやや高いが、全体としては低い割合となった。家庭で新聞を購読していても、それに手を出さず読もうとしない状況も多くなっていると考えられる。学校が購読している小学生新聞を各教科の教材として用いたり、読書活動の一環として新聞を読んだりすることで、児童の新聞への興味関心を高めていく。

## 宇都宮市立瑞穂野南小学校 (第6学年) 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基礎基本の定着を図る取組	朝の活動において「がっちり学習」として、全学年2人体制で、基礎的・基本的な内容の問題に取り組む活動を実施している。また、授業においても、前学年の内容を振り返り、定着を図れるようにしている。	国語、算数ともに、全体の正答率、知識・技能、思考・判断・表現の観点別の正答率が、全国の平均正答率を上回った。
家庭学習の習慣化に向けた取組	3～6年生では家庭学習ノートを用いた自主学習を学年に応じた目標時間取り組むように指導している。また、年に2回「家庭学習強化週間」を全学年実施して、家庭との連携を図っている。	自ら学習に取り組む態度に関わる「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができていますか」の設問で肯定的な回答した児童の割合は全国の平均を上回った。

### ★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
今後も基礎基本の定着を図っていく。	朝の学習や授業時における複数体制での指導及び指導形態の工夫(TT、習熟度別学習、)	朝の学習においては、担任だけでなく全職員を各学年に配置し、複数体制での採点および指導に当たる。問題を解いた直後に正誤が分かり、その場で修正することで学力を高められるようにしている。
算数では、思考を伴う応用問への解答に課題が見られた。	授業での学習内容を発展させた問題を解く場の設定。	算数科では、3年生以上の授業で人員配置を工夫し授業時の指導者が2名以上になるように工夫している。高学年の習熟度別学習では、単元によって授業担当や指導形態を変えるなど学習の効果を意識した指導を行っている。